

第8章 社会貢献

8. 1 社会教育活動

B群：社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

石川県主催のサイエンス事業に学内の施設や人的支援を行うなど、積極的に地域の子供達の社会教育活動に参加している。

特に、夢考房では平成6年より毎年「科学の面白さ」や「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうことを目的として、地域の小・中・高校生を対象とした「KITサマー・サイエンス・スクール」を開催している。このプログラムは、2日間にわたり、身の回りのものを使って物理的な現象を確認したり、遊びながら数学や物理の基本原則を体験するなど、様々な仕組みを準備してサイエンスの楽しさを実感できるように工夫されており、理数離れを少しでも防ぐために貢献していると考えている。サイエンス・スクールは、毎年15～18講座を用意し、その充実した内容ときめ細かな指導の成果として年々応募数が増加している。講座のテーマは、キッチンサイエンス、親子でふれあい木工教室、夢の飛行機、パラシュート付きロケットの打ち上げ、風車で電気を起こそう、電波を目でみよう、ライントレーサーなど、多岐にわたっている。なお、このKITサマー・サイエンス・スクールの模様は、地元の放送局による取材・放映も行われ、仲間同士や親子で力を合わせてそれぞれの課題にチャレンジしている参加者の生き生きとした姿が好感を得ており、平成11年には、この番組が「科学技術庁長官賞」を受賞し、本学も「優秀科学技術映像」としてこの賞を受賞している。

平成13年からは、本学の「池の平セミナーハウス」がある新潟県妙高高原町においても地元の生徒や保護者を対象とした同種のスクールを開催し、科学の楽しさを体験できるプログラムを提供している。

また、夢考房の施設は、北陸地方の高校生（若狭高校、大門高校）の科学体験施設としても利用されており、本学教員の指導による大学教育の擬似体験を経験できる場を提供している。

夢考房は、夏休み期間中に地域児童の自由工作用に施設を開放するなど、地元の野々市町から文教のまちづくりに貢献したとして平成14年に「特別功労表彰」を受けている。

8. 2 地域社会との交流

地域社会との文化交流の一環として、本学が持っているITに関する技術やノウハウの活用を目指し、地元の野々市町と共同して、町民がインターネットを利用して在宅学習ができるように、平成14年から「インターネット町民塾」を開講している。

さらに、学内には、本学が主体となって野々市町や周辺企業とともに作り上げた、北陸

初のコミュニティ放送局「えふえむ・エヌ・ワン」が開設されている。「えふえむ・エヌ・ワン」は、ラジオ放送を通して地域文化の活性化を図るとともに、地域防災の一翼を担うことを目的に設立されたものであり、本学の学生だけではなく、地元の主婦や社会人など、約300名のサポーターがボランティアで番組作りなどに参加している。

その他の地域貢献として、平成13年度から実施しているIT基礎技能講習会には、毎回定員を超える申し込みがあり、平成14年度にはこうした社会の関心の高さに応えるために、2講座を新たに追加して開催している。

また、平成14年11月から12月にかけて、石川県商工会連合会からの依頼を受け、本学教員が講師となり、一般市民を対象とした「創業セミナー」では、本学を会場に5日間にわたり10講座を開催し、起業を目指す52名の参加が得られた。

地域社会との交流の一つの視点として、約7,500名を超える学生が集う大学として、安全な地域社会の構築に努めることは当然の義務であると考えている。そこで、本学と野々市町とが共同し、地域住民・学生の安全の確保を目的に、平成14年に野々市町防犯協会と野々市町交通安全協会の地域安全活動の拠点となる事務所として「ののいちまち地域安全センター」を誘致した。これは、本学が新たに57号館を建築し、警察官立ち寄り所として提供したものである。さらに、平成14年11月からは学生と教職員による自主防犯隊「イーグル・セーフティ・プロジェクトチーム」を組織し、地域住民と一体となって本学周辺地域の合同パトロールを実施し、犯罪に強いまちづくりに貢献している。なお、このプロジェクトチームに対して、平成14年2月に石川県警察本部長より「功労感謝状」が贈られている。

8. 3 実験空間・創造学講座他の公開講座

B群：公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況

B群：教育研究上の成果の市民への還元状況

本学では公開講座として、創造の源を探る「実験空間 創造学講座」を平成6年から開講しており、その回数は67回を数える。この講座は、映像・音楽・ゲーム・宇宙開発・スポーツなど様々な分野で活躍中のクリエイターやプロデューサー、企業のトップなどを講師に迎え、創造とは何かをキーワードに映像や音楽を駆使したユニークな講座として展開されている。平成10年以降の講座に内容を表8.1に示した。本講座は、本学の学生が自由に参加できるだけでなく、一般の参加者も受付けており、地域社会に開かれた講座でもある。なお、平成14年度の講演内容や参加者数を表8.2に示した。

また、平成9年から、年に1回、東京にて学生や一般社会人を対象とした公開講座として「ルネッサンスジェネレーション」を開催している。これは、既成のカテゴリーやジャ

ンルでは括りきれない次世代型クリエイター達の新しい動きをサポートし、それに相応しいスタイルで提示することを目指したものであり、参加者は毎回300名を超えている。

表 8. 1 「創造学」開催内容一覧

年度	開講回	題目
平成 十 年度	第31回	「SONY ソニーの冒険」～これからの技術者に求められていること～
	第32回	「世界一のCMの作り方」～ヒットCMに学～
	第33回	「恐怖の創造学」
	第34回	「イマジネーションの世界で遊ぼう」～マルチメディア反対宣言～
	第35回	「15人の創造学」～21世紀を勝ち続けるために～
	第36回	「誰もやらないことをやろう！」～エイペックスの創った新しい音楽・新しいビジネス～
	第37回	「青年よ地球を飛び出そう」～宇宙新世紀への旅立ち～
	第38回	「G-SHOCK大ヒットの秘密」～進化するGショックとカシオの電腦戦略～
平成 十 一 年度	第39回	「広井王子のアミューズメント・プロデュース」～ユニークな発想をするために～
	第40回	「ポケモンに見るキャラクター戦略」
	第41回	「創造の尖端」
	第42回	「齋藤由多加のゲーム世界」これが新しい“生命”の世界だ！～キミは「シーマン」とどう暮らす？！～
	第43回	「進ぬ！電波少年」～次の企画！？それは俺の背中に聞いてくれ～
	第44回	「Jリーグの現状と未来」～プロフェッショナル・スポーツの世界～
	第45回	「ハリウッドに挑む！」～デジタル映像革命の未来～
	第46回	「米騒動と室井滋」～北陸三県の創造性～
平成 十 二 年度	第47回	「誰もが楽しめるゲーム創りを！」～カプコン岡本吉起の挑戦～
	第48回	「インターネット徹底就職術」～本当にやりたいことを見つけよう。～
	第49回	「史上最強のチーム作り」～反骨の創造学～
	第50回	「夢はディズニー！」～吉本興業のすごいところ、もっとすごくなるどころ～
	第51回	「ロボットは近未来のパートナー！？」～世界初！エンターテインメントロボットAIBO～
	第52回	「映画一人ですごまで作れますか？」～21世紀のクリエイターの条件～
	第53回	「進化するドーム」～新しい空間創造への挑戦～
	第54回	「マンガ読むと元気になる創造学」～マンガ制作の裏側～
平成 十 三 年度	第55回	「ホリプロのマネージメント戦略」～新しい才能の見つけ方～
	第56回	「未来をひらけ！科学技術の探検隊」～南極チャレンジ21～
	第57回	「ヒーロー★進化論」～イチローから松井まで～
	第58回	「プロジェクトX ～挑戦者達の舞台裏～
	第59回	「ガンダムブームを作った男たち」～はじめは普通のファンだった～
	第60回	「ダ・ヴィンチの失敗」～天才のイメージと技術～
	第61回	「That's Entertainment」～ショウほど素敵なものはない～
	第62回	「五感を磨け！」～超時空要塞マクロス企画、原作、デザイン、監督の超人気デザイナー河森正治の発想の原点をさぐる！～

表 8. 2 平成14年度「創造学」参加者人数

開催日	講演内容	参加人数
9月3日	バリダカを制す 灼熱の砂の海、13万キロ走破！	200
9月25日	『余はいかにしてメディア王になりしか』 ～あかほりさとる教授ゼミナール～	200
10月13日	「DASH村へようこそ！」 ～「ザ！鉄腕！DASH!!」が、今、伝えたいこと～	300
11月28日	映画「ピンポン」の驚異のCGリアリズム ～球がないのに球筋が見えた！～	100
1月15日	『21世紀型ヒットの条件』 ～ブレイク仕掛人のプロデュース術～ 「大きな古時計」はこうして生まれた！	50